

最高裁判所御中

意見書（例）

令和〇年〇月〇日

氏名：〇〇〇〇

住所：〇〇県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号

署名（または捺印）：

私について：

私は結婚して50年を迎えた3児の母です。

私の妊娠/出産 経験：

初めての出産のとき、私は夫の転勤で見知らぬ土地に移ったばかりで、家族も友人も近くにいない中、夫と二人きりで出産を迎えました。それでも保健師さんが定期的に訪問をしてくれ細かなサポートをしてくださいました。出産時も、病院で医療のサポートがある状況ではあったのですが、それでも16時間ほどの陣痛の痛みは、もう死んだ方がましと思えるようなものでした。

そして、出産した時、おそらく私は、先生や看護師さんの祝福を受け、夫からも感謝の言葉を受けたと思いますが、疲労が局地に達していたからでしょうか、全く記憶がないのです。しかも、私は難産だと思っていたのですが、先生からは「安産ですよ」と言われました。お産とはそんな極限状態なのです。

グエットさんの行動についての私の意見：

そんな出産経験を持つ者として、グエットさんことを考えたとき、胸が締めつけられます。彼女は誰にも相談できず、一人で赤ちゃんと大きな不安を抱えながら働き続け、孤立したまま出産を迎えました。しかも結果は死産。疲労困憊、死に物狂いで息のない赤ちゃんを産む。どれほどの苦しみ、悲しみだったことか！ グエットさんは貧血もあり、かなりの出血もあったと聞いております。そんな過酷な状況で冷静な判断とかできないです。

そんな身体的、精神的極限状態の中での行為を切り取って、「死体遺棄罪」として有罪とすることに強い違和感と憤りを覚えます。彼女に必要なのは通報や逮捕ではなく、ケアや支援だったのではないでしょうか。彼女を罰するよりも、技能実習制度を含む彼女が置かれた状況の改善こそが司法の役目だと思います。

以上、私の意見として提出いたします。